

“すばらしきみえ”

FOR NICE COMMUNICATION

2022.2

226号

■特集／農業の新しい風

●いま、グループネット／六〇会 ●みえを歩こう／尾鷲市 三木里町



農業の新しい風

温暖な気候に加えて、多様な地形を有する三重県では、古来、農業が盛んに行われてきました。生産者は、地域の特性に合わせて、さまざまな種類の農産物を丹精込めて育ててきたのです。

近年、農業を取り巻く環境は、高齢化や担い手不足が進むなど、厳しい状況が続きます。その一方で、次世代を担う生産者も現れています。

今回は、6組の農業生産者をご紹介します。野菜・伊

勢茶・果実など種類は異なり、取り組み方もそれぞれですが、安心・安全で、おいしい農産物を届けたい、そして、農業を盛り上げたいという想いに変わりはありませんでした。

*各農園や周辺施設での体験・イベントなどに関しては、実施期間・受け入れ人数・料金・受け入れ方法などに違いがあり、状況に応じて休止する場合があります。事前に必ずご確認ください。

取材文：中村真由美

中村元美

堀口裕世

撮影：梅川紀彦

尾之内孝昭

中村元美

ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

椿茶園

柔軟な発想で、伊勢茶の魅力を発信し続ける

【鈴鹿市山本町】



茶畑で作業中の市川 恭之さん※



猿田彦大神を祀る本宮として知られる椿大神社は、近年では縁結びの神社としても人気が高まっています。多くの女性やカップルたちが参道を行き交う中、平成28(2016)年、1軒のカ

的なカフェでは見かけない、急須が並んでいます。実は、同店が喫茶スペースで提供するのは、伊勢茶(煎茶・ほうじ茶・玄米茶・かぶせ茶)と伊勢茶に合う地元和菓子のみ。なお、伊勢茶とは、栽培

面積・生産量ともに全国3位の三重県で生産されるお茶の総称です。鈴鹿山麓では古くから栽培されてきましたが、山本町(椿地区)のお茶は渋みが少なく、すっきりした味わいと高評価を受けています。二人は、心を込めて育てた茶葉を、急須で「煎ずつ丁寧」に淹れているのです。



市川 晃さん(左側)と恭之さん

う人にも便利な上に、容量400ミリリットルと小ぶりなため、持ち歩きにもちょうどいいサイズとなっています。おしゃれな上に、環境にも優しい商品といえるでしょう。

「椿茶園」でおいしい伊勢茶をいただいた後、茶畑を案内してもらった。広大な畑の中には、各茶農家が共同で立ち上げた「有限会社 緑粋園」の工場があり、製茶のための多種多様な機械が稼

働中でした。「たとえば、よい茶葉であっても製茶で失敗すると、おいしいお茶にはならないのです」と教わります。おいしい伊勢茶を、より多くの人に届けるための親子2世代の挑戦は、今後も続くことでしょう。

お問い合わせ

「椿茶園」(火曜日定休)
0120-1129078
TEL 059-371-1845

平坦ではなかったといいます。女性建築家やデザイナーたちで設立した「一般社団法人 WHAIS(ワイズ)」(神奈川県横浜市)との連携によって、ようやく乗り越えられたのです。「カフェの設計からロゴマークや紙袋のデザインまで何度も話し合い、多くのことを学びました」と市川さん。中でも、一人暮らし世帯の多くが急須を持っていないという話には危機感を募らせたといいます。しかし、発想を転換させ、物販スペースでは茶葉よりもティーバッグを多く販売するなどの工夫をしています。また、昨年は新商品「CHACHABY(チャチャビィ)」を開発。オリジナルマイボトルにティーバッグをセットし、ボトルの側面に記されたメモリや順番に従って、水やお湯を入れれば、おいしいお茶が飲めるというものの、急須で淹れるのは面倒とい



「CHACHABY」オリジナルマイボトルとボトルケース



「椿茶園」の喫茶スペース



鈴鹿山麓に広がる茶畑



揉捻機で揉まれた茶葉



「有限会社 緑粋園」工場

三重県発祥品種のイチゴ狩りも楽しめる、
成長途中の農園

Tomi Berry

いちご農園

【伊賀市猪田】



真っ赤に色付いた大粒のイチゴ※

の際に腰を曲げなくてすむのも特徴です。この日は収穫前でしたが、ご厚意で赤く色付いた「かおり野」をいただくことに。「かおり野」は、平成22（2010）年に県内で開発された品種で、果実が大きく病気に強いのが特徴です。手のひらに乗せた途端に甘い香りに包まれ、爽やかな甘さが口中に広がります。酸味が苦手なお子さんでも大丈夫と、人気上昇中です。

小春日和のある日「Tomi Berry いちご農園」を訪ねると、広々としたハウス内に、イチゴの花や実が1メートルほどの高さから垂れ下がる様子が見えました。「高設栽培と呼ばれる栽培方法です」と教えてくれるのは、同農園代表の富田 高平さん。お話によると、イチゴを栽培するベンチの中には土が入っていて、必要な養分や水分が行き渡るようになっていくとのこと。各作業や収穫

さんですが、20代までは農業に従事するとは想像もしなかったといいます。平成26（2014）年、病気を機に実家の伊賀に戻り、新たに何かを始めようとした際に念頭に浮かんだのが、祖父が家庭菜園の野菜を近所の人々に配り、喜んでもらっていた姿でした。ほかに偶然の出会いが重なり、現在につながったと淡々と話す富田さんですが、その目は、未来を見据えていました。「今後は、伊

賀地域全体の農業を盛り上げ、若手を育成する受け皿になりたい」と抱負を語ってくれました。

同農園では、1月5日からイチゴ狩りがスタート（完全予約制）。「かおり野」に加え



キッチンカーで「いちごスムージー」も販売



富田 高平さん

お問い合わせ

「Tomi Berry いちご農園」(火曜日定休)
TEL 080-11607-1115

※印の写真は取材先から提供していただきました

業務用野菜に特化し、企業としての成果を

農事組合法人 忍の里

【名張市西原町】



元氣よく茂る小松菜

場を案内していただく、立ち並んだビニールハウスには小さな苗から出荷寸前のもので、ハウスごとにさまざまな大きさの小松菜や水菜が育っています。出荷間近の小松菜は、見慣れたものよりも丈が高く、濃く鮮やかな緑。さわると柔らかく、いかにもおいしそうです。「業務用の野菜なので、

が激しく、先が読めませんから不安材料が多いんです。だから細かくデータを取って蓄積し、分析しています」の言葉通り、大小の工夫の成果がハウス内のそこそこに見られます。猪上さんの「過保護も放りっぱなしもだめなんです」の言葉に、野菜への愛が感じられます。「農業は機械化が遅れています。省力化を図って、有給休暇をしっかりと取れる企業にしたいんですよ」と山本さんは理想の企業に近づけるため、すでに次のステップへの準備をされているようです。



猪上 桃子さん

珍坂 優基さん

代表理事の
山本 晃さん

「輸入されている野菜を国産化したい」と思って農業をはじめましたが、現在の農業を企業として成り立たせていくのは、とても難しいことなんです。努力した者だけが利益を出していける」と話されるのは「忍の里」の代表理事・山本晃さん。土木業から転身し、様々な試みを積み重ねて、名張市のほか岡山県にも大規模農園を展開している方だけに、説得力のある言葉です。

珍坂 優基さんと猪上 桃子さんに圃

スパーマーケットなどで売られている野菜の規格には合わせていません」と珍坂さん。「健康でおいしい野菜を作りたいんです。ある程度風に当てる植物自身の力を出させたり、苗を植える前にハウスの温度を高くて雑草や虫をなくし、薬品の使用量を抑えるなど、色々な工夫をしています。最近では気候変動



水菜も鮮やかな緑色

お問い合わせ

「農事組合法人 忍の里」
TEL 0595-165-0821

工業と融合させた未来志向の農業

うれし野アグリ株式会社

【松阪市嬉野新屋庄町】
にわのしやう



ハウス内に実るミニトマト

たハイテク温室です。中には水耕栽培されたミニトマトが天に向かって長く伸び、真っ赤な実が同じ高さにずらりと並び、まさにトマト工場の様相を呈しています。

出荷される「房どりミニトマト」は、房の元から先端まで、全ての実が真っ赤に熟していてつややか。実が熟すまで枝に付

けて育てるので味も濃厚です。これは品種を選び、こまめに摘花や剪定せんていをするなど努力を重ねた成果。「うれし野アグリ（株）」の社長であり、株主の「辻製油（株）」の会長でもある辻保彦さんにお話を伺うと、「ここには現在、パートタイマーも含めて120人程が働いていま



代表取締役社長の
辻 保彦さん

す。よく頑張ってくれていますよ」とにっこり。
「この温室は日照時間の短い季節や曇りや雨など照度が不足する日はLEDライトが点くんです。自動制御で得られた環境のデータや栽培のデータ、人が行った作業の記録などと、収穫したトマトの分析データとを対比して、どんな栽培をすればどんなトマトができるのかを可視化しています。これは、安心安全や、農業の改革につながります」。

製油会社から農業へと手を広げられた理由を伺うと、「私はこの嬉野の出身なのですが、『辻製油（株）』は長い間全国や世界に向かって展開してきました。今度は地元に戻元したいと、CO₂削減に貢献し、地元雇用を生みだせる、バイオマスボイラーの工場を作りました。平成21年度の『食品産業CO₂削減大賞』を受

工場と水田の間に「うれし野アグリ株式会社」のキラキラと輝く温室がとがった屋根を連ねています。背の高い温室は、3棟で3.2ヘクタールという広大さ。温度や湿度、CO₂の濃度などが自動制御され



自動制御された広大な温室



LEDライトが点る温室内



整然とトマトが並ぶ



トマトジュースと「房どりミニトマト」

「今はミニトマト中心ですが、熟した実からジュースも作っていますし、他の野菜も視野に入れています。食糧自給率の低い日本にとって農業は重要でしょう。『辻製油（株）』では他にも、高知県で柚子ゆず、県内では黒ニンニク、柑橘類、キダチアロエなど各地でアグリ事業にも力を入れています」。「うれし野アグリ（株）」の経営理念にも「地球に優しい農業」、農業を面白くするイノベーターであることなどが挙げられています。

「今は先祖から伝えられてきた耕作地や山林が荒れているでしょう。荒廃し

た土地を見ると私は胸が痛むんです。若い人が戻って来て奮起してもらわないとこれを打開することはできませんが、将来性が見えない場所に人は戻ってきませんよね。企業ですから、利益を出すことはもちろん必須ですが、若い人にやる気を出してもらうための仕掛けを作って行くのも、私の重要な役目だと思っていますんです」。まだまだこれから大きな新展開が見られそうです。

お問い合わせ

「うれし野アグリ株式会社」
TEL 0598-1311-3773

新たな技術で持続可能な社会を

株式会社ポモナファーム

【多気郡多気町】



彩り鮮やかなマイクロリーフ

ているわけでは
ないです」。

彼らの目的は、
いわば人類の未来
を守ること。持続
可能な社会を作ろ
うという挑戦です。

気候変動や水不足
が地球規模で心配
されている今、環
境負荷が少なく、
やがて人類が直面
するであろう食糧
危機に対応できる
農業を研究し、新

たな方法を実践し、企業としての利益も
着実に生んでいます。

豊永さんは大学在学中に遺跡の発掘
や保存などの研究でカンボジアを訪れ
た際、環境破壊によって短期間に遺跡の
崩壊が進み、河川等が汚染されていくの
を目の当たりにしたそうです。「農業廃
水は窒素を多く含んでいて、環境に大き

な負荷を与
えています。

発展途上の
国々ではそ
れが目に見
える形で起

こつていて、世界は非常に危険な状態だ
と実感しました。歴史的に見ても、一つ
の文明が減じるのは、ほぼ人口増大→環
境破壊→食糧危機という順序で起こっ
ています」。

豊永さんが出会い、独自に研究を重ね
たのが「環境適応型膜式栽培農法」。人
工の培養土の下に三層の薄いシートと
マットを敷く農法で、土は使いません。
このシートは直接根に水や肥料を与え
るのではなく、水分を気化させるとい
います。水の少ない厳しい環境に置かれ
た植物は自然本来の力を発揮し、「湿気
中根」という綿のように細く長い根を茂
らせ、空気中の湿度を効率よく取り込む
のだそうです。「この方法は、作物の糖
度などを比較的容易に管理できますし、



CEOの豊永 翔平さん

小高い山々に囲まれた多気町丹生。
古く水銀の産地として知られたこの地
は、今は静かな農村です。田畑の広がる
中に、ずらりと並ぶビニールハウスが平
成29（2017）年に創業した「株式会社
ポモナファーム」。若者たちが運営する
この農園のCEO・豊永翔平さんは言
います。「僕たちは農業自体を目的とし

その品種本
来の個性を
活かした高
栄養の野菜
を作ること
ができます。



熟したトマトのジュース

中にはトマトがたわわに実り、マイクロ
リーフは色鮮やかに育っています。また
熟したトマトからジュースやケチャップ
なども作られています。

地元の方にも『懐かしい昔の野菜
の味』と言ってもらっています」。必要
な水は従来の農業の10分の1程で、農業
廃水はゼロ。シートは半永久的に使い、
施工費などのコストも押さえられる、多
角的にメリットの多い栽培法なのです。
現在このファームで実践され、ハウスの

技術開発と農業生産を両輪として企
業展開し、現在、日本内外の20以上の
企業や研究機関のパートナーとなつて
おり、拠点は海外にも。「今はサンディ
エゴやハワイなどにも農場があります。
先ず丹生から始めたのは、ここが北緯34
度32分の『太陽の道』と呼ばれるライン上
に位置していることが大きいですね。
これは世界的に見て、聖地が並び、か

つては自然の恩恵を受けて文明が栄え
た場所なのですが、今は環境汚染や異常
気象による被害を最も多く受けている
地域帯なのです。だからあえて、この場
所から始めようと思いました。ファーム
の名の『ポモナ』はローマ神話の栽培
をつかさどる女神の名前ですが、この女
神は日本神話では丹生都比売神に当た
るとのことです」。近い将来、丹生は新
たな伝説の地となりそうです。

お問い合わせ

「株式会社ポモナファーム」
TEL 080-4848-6685



ミニトマトが花盛りのハウス内



三層のシートを用いた「膜式栽培農法」



培養土の下に茂る「湿気中根」※



ミニトマトは色も味も濃厚

町のイメージを重ね、みかんに付加価値を 石本果樹園

【南牟婁郡紀宝町】



みかんの収穫は一つひとつ手作業で

温暖な気候に恵まれる三重県最南端の紀宝町に「石本果樹園」があります。温州みかん、伊予柑、ポンカン、はるみ、清見、カラなど年間約40種類を生産し、国道沿いの直売所から全国へ旬の柑橘を発送。4か所の畑で栽培し、広さは3

ヘクタールです。

導入は難しく、手作業が頼り。「樹木栽培の農業にIT化は取り入れにくいのですが、ドローンを使った獣害対策や、自動掃除機を応用した自動草取り機のようなものができないか模索しています」と農家にとって深刻な重労働や獣害

代表の石本 慶紀さんに温州みかんの畑を案内していただきました。紀州犬の「サスケ」が見守る中、30年以上勤務するベテランスタッフが作業にあたります。熊野灘を望む果樹園は段々畑で、日当たりは抜群。また礫質の土壌は水はけがよく、余分な水を吸収しないため、甘みをしっかりと蓄えたみかんが育ちます。土地の特徴を活かした栽培ですが、高低差があり、石が転がる地面に機械の



「石本果樹園」の3代目・石本慶紀さんと「サスケ」

問題を、慶紀さんは柔軟な発想で未来を描きます。

創業以来、約80年に亘って、栽培にこだわる「石本果樹園」。戦後、国策として取り組んだ町の柑橘事業に、慶紀さんの祖父が参入しました。当時は筏師で賑わった熊野川河口の和歌山県新宮市へ、祖母がリヤカーでみかんを売りに行き、鵜殿村（現在の紀宝町）に大きな製紙工場ができてからは、その近くに販売所を設けました。2代目の父が栽培種を広げ、今の基盤を築きます。家業を継ぐことに対して、迷いはなかったという慶紀さん。三重県農業大学校で基礎を学び、大分の農園で修行をしたのち、ふるさとに戻りました。

果樹園ではハウス栽培やマルチ栽培で品質向上にも努めていますが、基本は土壌栽培となり自然相手。台風などの被害や温暖化等の気候変動も悩ましい課題で「暑さ寒さが極端になり、去年2月の冷え込みで果汁が凍ってしまい、5月の出荷分でもろに影響が出ました」と現場の変化を肌で感じています。

販売方法についても、イチゴやブドウなどに高価な商品が出る中、みかんにも新たな価値観をと誕生させたのが、不知火を木成り完熟させた「はるぼん」です。長く木で育てるにはリスクもあ

りますが、「垣根仕立て」と呼ばれる方法で獣や鳥の侵入を防ぎ、みかん類が少なくなる3月に売り出しています。

農業や暮らす地域に危機感を抱いて活動する慶紀さんは、「道の駅紀宝町ウミガメ公園」の運営に17年前から関わり、現在は社長を務め、経営面で手腕を振るっています。「モノも大事だけれど、それより思い出。紀宝町に良い思い出ができれば、みかんのことも気に留めてくれる」と、情報発信に力を注ぎ、YouTubeでの動画配信も飼育員の伊藤 柊也さんに期待します。またネット社



温州みかんの育つ段々畑



国道42号沿いの直売所に旬が並ぶ



「垣根仕立て」で「はるぼん」を栽培



飼育員の伊藤 柊也さんは「地域おこし協力隊」

お問い合わせ

「石本果樹園」

TEL 0735-32-1403

会にだけ注目するものではありません。道の駅スタッフが情報を集め、月に一度、手書きの新聞も発行。必要としている人に、きちんと情報を届けています。

「柑橘を観光とセットで紀宝町を広めていきたい。それにウミガメが産卵に来る海のきれいさは、山の管理と結びつく。そのためにも、果樹園をしっかりと守っていかないと」と農業の使命を感じ、町の将来を見据えています。

六〇会

平成17(2005)年、辺法寺町の60歳以上の有志8人が、排水処理場周辺に広がる耕作放棄地を整地し始めました。有志は、まちおこし団体「六〇会」を結成し、こを住民憩いの公園にしようと奮闘します。東屋や橋などを設置したほか、ハスやアジサイを植栽。明治時代の字名にちなんで「六〇会」と名付けられた公園には、四季折々の花々が咲き、地域の人々が集います。

結成当初8人だった「六〇会」は、その後賛同者が増え、現在は23人に。毎月1日には「六〇会」の草刈り作業などを行っています。今回は、休憩中の皆さんにお話を伺い、会長の笠井 年憲さん(としのり)に代表して答えてもらいました。

「六〇会の郷」には、本格的な東屋や橋などが揃っていますが、これらは皆さんの手作りですか？

笠井：そうです。ここにあるものは、皆で協力して作ったものばかりです。会員の中には設計・施工・電気・動力機械などの技術や資格を持っている人がいて、それぞれの能力を活かしあいながら進めました。道具も自分たちで用意し、た

いですね。大人だけでなく、子どもたちも喜んでくれそうですね。

笠井：私たちは、会の結成当初から、地域の3世代が交流することを目的にしていきましたが、中でも子どもたちが自然や文化に触れる機会を増やすことを考えてきました。近くの水田を借りて稲作を始めたのも、子どもたちに田植えや稲刈り、はさ掛けなどを体験してもらうためです。また、地域に古くから伝わる「亥の子祭り」の継承もその一環です。

「亥の子祭り」とは、どのような祭りですか？



「六〇会の郷」



大輪の花を咲かせるハス※



「花蓮祭り」の様子※



亥の子を手に、唄をうたう子どもたち※

笠井：旧暦10月15日の夜に1年の豊作を感謝するために行う祭りです。各家の玄関先を子どもたちが訪問して、亥の子と呼ばれる藁束を地面に打ち付けながら唄をうたうというものです。お菓子などのご褒美もあり、子どもたちも楽しそうに参加してくれます。祭りの少し前には、地域の3世代が集って、子どもたちの亥の子作りをサポートします。私たちは、子どもたちの成長につながるように、なるべく自主性を尊重するようにしています。

——ありがとうございます。

お話を聞いて、皆さんの子どもたちに対する愛情の深さが実感できました。ほぼ全員が「亥の子保存会」(川戸 孝夫会長)会員でもあることから、「亥の子祭り」の唄も教えてもらいました。「亥の子亥の子 亥の子の藁は新藁で 新藁新餅 祝いましよ」(後略)

一昨年と昨年は、各体験や祭りが思うように実施できなかったとのことですが、今年は「六〇会の郷」では人々が憩い、秋には町中に子どもたちの元気な歌声が響くことでしょう。

インタビュー……中村 真由美

たとえば東屋の場合、山から伐り出した木材や間伐材を使って、完成までには半年かかっています。入口の招き猫も一刀彫が趣味の会員が制作したものです。

——それはすごいですね。地域に貢献したいという、皆さんの気持ちが伝わります。ハスやアジサイを植えたのも、同じ気持ちからなのですね。

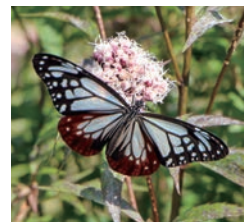
笠井：地域の皆に楽しんでもらいたくて始めましたが、ハスの花は育てるのが意外と大変で、冬期には愛知県愛西市の



「六〇会の郷」入口の招き猫

観光協会の指導を受けながら、ようやくここまで増えました。今では、7月に「花蓮祭り」を開催(中止の場合あり)し、参加者にかき氷や流しそうめんなどをふるまっています。最近では県外からの訪問者もいて、600人ほどが集まります。また、春にはサクラ、初夏にはアジサイ、秋にはフジバカマも花盛りとなります。フジバカマは昨年5月に植え始めたばかりですが、花の咲く10月には、合計400頭のアサギマダラが飛来してくれました。

——今日も、飛んでいるのを見ましたが、本当に美し



アサギマダラ



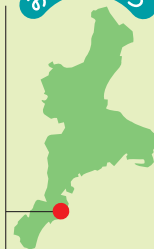
会長の笠井 年憲さん

お問い合わせ

「六〇会」
TEL 090-2342-3945
(笠井 年憲会長)
「六〇会の郷」所在地
亀山市辺法寺町1252-7



「六〇会」の皆さん



白砂青松に透き通る海、
瓦屋根が美しい集落を訪ねる

尾鷲市 三木里町

熊野古道伊勢路の最難関と謳われた八鬼山の麓に位置する尾鷲市三木里町は、海と山の間の集落におよそ300人が暮らし、古い家並みが残る通りに風情が漂います。

八鬼山の頂上は627メートルで、勾配がきつい上に、かつては狼や山賊が出没するとして旅人や巡礼者から恐れられました。その険しい山を降りた三木里で、みな安堵したことでしょう。

そんな旅人の往来が聞こえてきそうな旧街道と白砂青松の美しい海岸線を歩けば、豊かな自然に触れ、町の歴史を垣間見ることが出来ます。三木里在住の濱口 精幸さんに、地元の祭りなどもお聞きし、町を案内していただきました。

三木里のある尾鷲市南部の海沿いは複雑なりアス海岸で、入り江の奥に点在するそれぞれの集落をJR紀勢本線が結んでいます。

取材・文：中村元美

白砂青松の静かな 海でリフレッシュ

今回の散策の起点・終点は、JR三木里駅です。高台にある小さな無人駅で、背後には桜や新緑の頃に色付く山があり、森林浴を楽しめる「野鳥の小路」が整備されていますが、この日は青く輝く海に向かって歩きます。

駅から八十川と並行する県道159号に出て少し行くと、集落沿いの細い道と交差する角に「ひだりくまのみち」と書かれた高さ1.5メートル程の道標が立っています。美しい崩し字の書体からみて、文化・文政（1804～1830）の頃のものとされています。この道標は、二つに折れて横倒れになっていたの



電柱脇に花崗岩の道標

を地元の人が発見し、この場所に建て直しました。

集落に入り、海へ向かって進みます。定期的に野菜を並べる無人市場やレトロな銭湯跡などを濱口さんに教えてもらい歩いていると、程なく国道311号に出ます。道路を渡った先には三木里海水浴場の駐車場があり、右側の八十川河口付近は船溜まりとなっています。

尾鷲市南部の海沿いに集落は8つあり、それぞれに漁業が中心の港を有していますが、その中で唯一、白い砂浜が美しい広々とした海水浴場を持つのが三木里です。町には漁港がないため、船溜まりのほとんどが遊漁船だそうです。かつてはここから船で渡る海路が発達していましたが、路銀の乏しい巡礼者にとって船旅は難しく、三木峠・羽後峠を越える陸路を頼りにしていたようです。

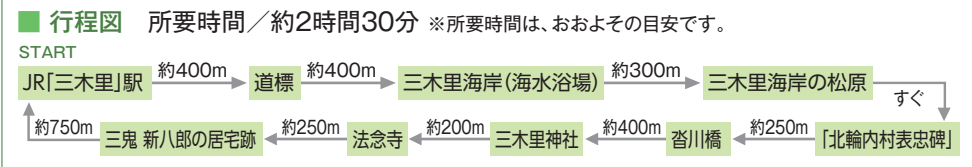
三木里海水浴場は60年ほど前に整備され、県内でも屈指の遠浅の海。波音を聞いて歩けば、気分も爽快です。季節になるとキャンプやシーカヤック、ときお



八十川河口の船溜まり



三木里海岸の松原は市の史跡名勝記念物



三木里海岸の松原は市の史跡名勝記念物

りウインドサーフィンを楽しむ人の姿も見受けられ、オープンウォータースイミングの大会も開かれています。

海岸沿いにマツの木が枝を広げていますが、ここに正徳2（1712）年、紀州五代藩主でもある八代将軍・徳川吉宗が防風林としてクロマツを植林しました。当時の木はところどころに残され、胸高4メートル、樹高20メートル以上になる立派なマツもあります。「子どもの頃にはマツの木に登って、よく怒られま



曹洞宗の法念寺



御本尊は阿弥陀如来



古い家並みが残る通り



新八郎の居宅跡を囲う石垣

したけどね」と濱口さん。昭和48（1973）年に市の史跡名勝記念物に指定されています。



フナの変種である鉄魚

となっています。御本尊の阿弥陀如来像は平安後期のものでされ、地域での信仰も篤く、熱心にお参りされているようです。境内から振り返ると、寺の山門越しに見る松林と海もコントラストが美しく、まるで額縁のようです。



軒先の「雁木」の造り

少し歩いたところで濱口さんが路地へと案内してくれました。高い石垣に囲まれた場所が、大坂冬の陣で敗れた豊臣方の三鬼新八郎の居宅跡です。隣町の三木浦に出城をつくり、当時の三木荘（北輪内・九鬼村）を治めていた人物です。旧街道に戻って坂道を下りると、元来た道にぶつかり、ゴールの「JR」三木里駅も間近です。自然と共存し、郷土に受け継がれたものを守ってきた町の歴史に触れるひとときです。

問 三木里地区会

TEL 0597-28-3046
TEL 090-1504-3046

旧街道沿いに残された風情あるたたずまい

町の守り神とされる「御幣」を取り換えます。300年以上続く神事とされ、海水で身を清める「垢離掻き」など昔からの儀式が受け継がれています。

旧街道に戻って歩くと、右側に法念寺の山門が見えてきま

した。境内にはナギの木とバクチの木が並び、お堂裏手にある池には鉄魚が生息し、県の天然記念物

海際へ戻って歩きます。堤防が終わるところで左に進み、国道に合流、沓川に掛かる沓川橋を渡れば、熊野古道の難所・八鬼山の麓にある名柄集落です。八

八鬼山麓の歴史ある守り神

鬼山を降りた集落入り口には「名柄の一里塚」があり、また戦国時代の武将のものとされる「五輪塔」の話を濱口さんから聞き、今回はこの橋で引き返します。来た道に戻っていると、昭和30年頃まで木橋が掛かっていたという場所を濱口さんが教えてくれました。「対岸にお墓がありますが、その石積みに沿って道があったと記憶しています」。示された場所から逆方向に、民家沿いの道を進んで、国道を横切り、古い町並みへと続く坂道を登ります。『西国三十三所名所図絵』に「八鬼山を下り名柄村をへて三木里浦にいたる。ここは入海の船付にしてにして商売の店 旅籠屋立ちならび」

と書かれ、三木里の旧街道には何軒かの旅籠があったようです。右側に見上げた山肌に三木里神社の幟が揺れています。一際高い場所があり、参道石段からの眺めは抜群で、ここは津波時の避難場所としても役立っていました。御神木は幹周り7メートルもある樹齢1200年のスギの古木で、歴史を感じさせてくれます。また境内の北側小山の頂上に祀られている浅間神社の分社・貴船神社では、富士山の山開きに合わせた「御山まつり」が行われています。7月1日の本祭で町の安全や無病息災を願い、高さ約30メートルのスギの木に、祭りを仕切る「先達」が登って、



「浜の松」と地元で呼ばれるクロマツ



三木里神社からは町も海も一望



御神木は樹齢1200年

三重 の シンボル

松阪市

三重県内の市町などが、それぞれの特徴を象徴する存在として選定している木・花を紹介します。



市の木
マツ



市の花
ヤマユリ

■ お問い合わせ ■

松阪市役所 総務部総務課 法務行政係 TEL 0598-53-4321

*市・町名の50音順に紹介しています。

*シンボルを選定していない、もしくは鳥や魚などを選定している市町も一部あります。

表紙写真 「うれし野アグリ株式会社」（松阪市嬉野新屋町）

百五銀行のホームページで、「すばらしき"みえ"」のバックナンバーをご覧ください。
<https://www.hyakugo.co.jp/mie/>